

秋田八幡平クマ牧場について

生活衛生課

1 アライブの現地調査結果について

- NPO法人地球生物会議（アライブ）が、5月1日から4日までに秋田八幡平クマ牧場施設に対して行った調査結果によると、「個体の年齢・性別・入手元に関する情報がない」、「クマたちの多くは痩せてはいない」、「繁殖制限に取り組む必要がある」、「給餌場であるバックヤードは錆の浸食によって安全性が問われる箇所が見られた」などの見解が示されている。
- なお、アライブからは、個体識別に関する情報が随時提供されているが、これを補足するなどのため、改めて現地調査をしたいとの意向が示されている。

「八幡平クマ牧場 現地視察レポート（概要）」（要約）

【飼養頭数について】

- ・クマの頭数は、29頭（ヒグマ23頭、ツキノワグマ6頭 ※ヒグマ23頭中にはエゾヒグマだけではなくコディアック及びその亜種間交雑種を含む）。
- ・マイクロチップによる個体識別はもちろん、管理台帳も作成しておらず、個体の年齢・性別・入手元に関する情報はほとんどない。

【給餌・給水について】

- ・給餌量だけを見れば問題ないと思われ、牧場内のクマたちの多くは痩せてはいない。
- ・飼養個体の中で、著しく痩せている個体が数頭見られた。この要因としては、一部の群において、強い個体が弱い個体に対し餌を食べることを妨害していた。

【飼養施設について】

- ・いずれの舎も老朽化が進んでおり、特に給餌場であるバックヤードは錆の浸食によって安全性が問われる箇所が見受けられた。

【繁殖制限について】

- ・1つの獣舎に雌雄混合で飼育されている箇所がいくつか見られ、交尾行動も確認された。
- ・飼養頭数の増加は致命的であるため、繁殖制限に取り組む必要がある。

【まとめ及び提言】

- ・バックヤードでは錆による浸食が著しく、現在の飼育体制が崩れた場合（給餌が滞った場合）、空腹による破壊性が高まり、クマが獣舎を破壊し、逸走する可能性も否定できない。

2 クマの引き取り依頼について

- 5月5日に経営者から支援要請があったことなどを踏まえ、県では5月7日から8日にかけて全国のクマ牧場に、クマの引き取りについて協力を依頼した。
- その結果、県外では受け入れる施設はなかったものの、阿仁熊牧場では、県内のことでもあるので慎重に検討したいとのことであった。

【全国7カ所のクマ牧場への引き取り依頼結果（5月7日～8日）】

照 会 先	引取の 可 否	理 由
のぼりべつクマ牧場 (北海道)	不 可	・飼養スペースがない。個体管理ができていないクマは受入れしない。
昭和新山熊牧場 (北海道)	不 可	・受入れの余裕がない。
北の森ガーデン熊牧場 (北海道上川)	不 可	・閉園も検討している。頭数制限を行っており、クマを増やすことはできない。
サホロ ベア・マウンテン (北海道)	不 可	・新しい個体の受入れは、既存グループの個体との間で闘争が生じる。個体毎に飼養する施設がない。
奥飛騨クマ牧場 (岐阜県)	不 可	・飼養スペースがない。ヒグマは危険度の面から受入れは困難。
阿蘇カントリー・ドミニオン (熊本県)	不 可	・ツキノワグマ、ヒグマ合わせて200頭程飼養しており、引き取りは考えていない。
阿仁熊牧場 (秋田県)	検 討	・引き取りは難しいが、県内のことでもあり慎重に検討したい。

- また、5月16日には、公益社団法人日本動物園水族館協会を通じて、全国の動物園などにクマの引き取りについて協力を要請した。

・協会からは、クマの頭数や種類、性別、健康状態など譲渡に必要な情報を求められたことから、5月17日時点で作成している個体識別表を送付。



・5月22日の理事会で了承を得た上で、翌23日に開催される総会において会員に周知する予定。

3 クマの頭数と種類について

- 5月8日にクマの給餌に同行した県職員が、経営者からの支援の要請文で報告されていた、生後3カ月位の子グマ2頭を確認した。
- また、これまで「コディアックヒグマ」としていた個体については、専門家である北秋田市の小松獣医師が5月16日に現地調査した結果、交雑種の可能性があるとの見解を示したことなどから、「ヒグマ」として統一することとした。

【5月1日現在】		【5月18日現在】
ヒグマ 15頭		ヒグマ 23頭
コディアック 6頭	計27頭	(子グマ2頭を含む) 計29頭
ツキノワグマ 6頭		ツキノワグマ 6頭

4 クマの個体識別について

- クマの譲渡に必要な個体識別表（種類、性別、年齢等）については、これまでの経営者からの報告、動物管理センターの調査及びアライブの調査に加えて、5月16日の小松獣医師による調査をもとに作成を行っている。（資料-3参照）
- なお、小松獣医師によると、施設については特に危険な箇所は認められなかったことや、衰弱しているクマについては隔離が必要であるとの指摘がなされている。
このため、衰弱しているクマについては、応急的な処置として抗生物質を餌に混ぜて投与している。

5 非常勤職員の採用等について

- 5月7日から、経営者が一人で給餌作業をしていることから、地元住民の不安解消（逸走等）を図るとともに給餌の確認のため、緊急避難的に県動物管理センターの職員等を派遣しているが、今後、非常勤職員3人を雇用するとともに、補助的な餌としてトウモロコシ圧片等の購入などを行うこととしている。

職員（獣医師等）3～4人	⇒	職員（獣医師等）1人 非常勤職員 3人
【非常勤職員の雇用等に要する費用】		
（非常勤職員の報酬（3人×2カ月） 1,635千円 クマ用餌代、ガソリン代等 465千円 計 2,100千円 ※緊急避難的対応として、動物管理センターの当初予算で対応（6月補正予算まで）		

- なお、これまで全国の1団体、6個人から、トウモロコシ圧片やリンゴ等417kgの餌が寄せられている。

6 今後の対応について

- 残されたクマについては、引き続き、「個体識別表」を作成しながら、国や関係団体の協力を得て、全国の動物園などにクマの引き取りを依頼する。
- 警察の捜査状況を見極めながら、事故原因などを確認した上で、経営者に対し法令に基づき厳正に対応する。

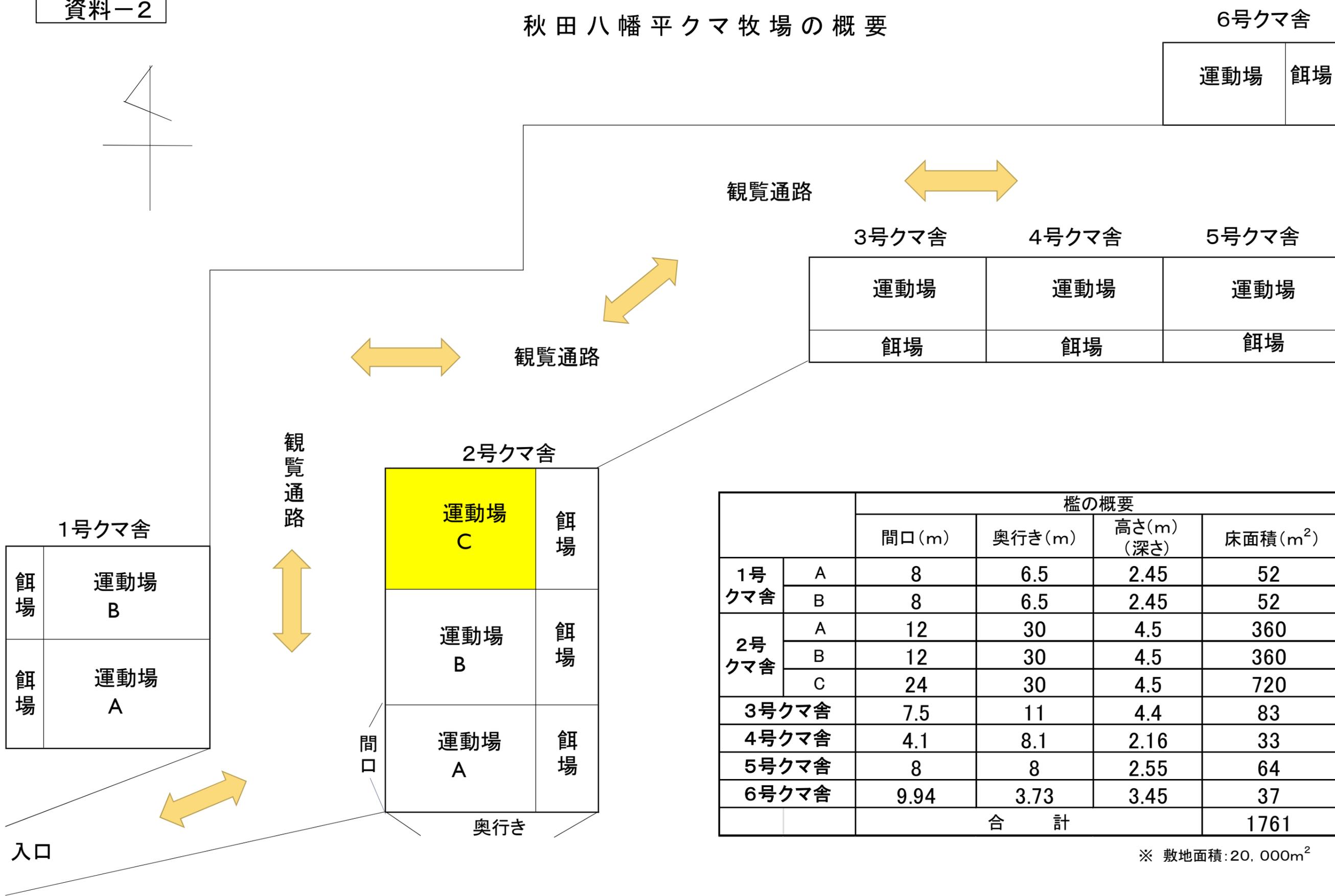
資料－１

平成２３年度に実施した立入調査の状況について

特定動物の飼養施設の立入については、通常年１～２回行っているが、平成２３年度は、野生熊の侵入情報、アライブからの公開質問、経営者からの閉園に関する相談などがあったことから、次のとおり年５回の立入調査を行っている。

立入調査 年月日	調査時間	立入者	指導の内容等
平成２３年 ５月９日	12:30～ 13:30 (1時間)	櫻田 渡辺	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の安全確認 ・檻に観覧者の手が届かないよう障壁（２カ所：４号と６号クマ舎）の改善設置を指導 ・飼養頭数を確認（４０頭） ・飼養管理台帳の作成を指導 ・以前指導していた餌箱の修繕を確認
平成２３年 ６月７日	11:30～ 12:30 (1時間)	櫻田 菅沼	<ul style="list-style-type: none"> ・５月９日の指導事項の改善（４号クマ舎の障壁の改善設置）を確認 ・６号クマ舎の障壁設置改善を再度指導 ・飼養管理台帳の作成を指導 ・カビの発生した餌を給餌しないよう指導
平成２３年 １０月７日	12:00～ 13:00 (1時間)	櫻田 渡辺	<ul style="list-style-type: none"> ・６月７日の指導事項の改善（障壁設置）を確認 ・野生熊の侵入情報に基づく調査で、便所床に熊の足跡を確認 ・施設の安全確認（６カ所の各飼養施設の点検では異常なし）
平成２３年 １１月２４日	11:30～ 13:00 (1時間 30分)	高橋 櫻田	<ul style="list-style-type: none"> ・アライブの公開質問に基づき、給餌内容、餌の衛生管理、飼養環境等について確認 ・安易に野生個体を導入しないよう指導 ・許可更新時期をめどに、檻などの大規模修繕等について検討するよう指導 ・飼養管理台帳の作成、報告時期などを指導
平成２４年 ３月２２日	11:40～ 12:40 (1時間)	伊藤 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・飼養管理台帳の作成について再度指導（平成２４年４月６日指示書を手交） ・経営者から、従業員の高齢化及び施設の老朽化等により閉園の意向があることを確認したため、最後まで事業者責任を果たすよう指導

秋田八幡平クマ牧場の概要



		檻の概要			
		間口(m)	奥行き(m)	高さ(m) (深さ)	床面積(m ²)
1号クマ舎	A	8	6.5	2.45	52
	B	8	6.5	2.45	52
2号クマ舎	A	12	30	4.5	360
	B	12	30	4.5	360
	C	24	30	4.5	720
3号クマ舎		7.5	11	4.4	83
4号クマ舎		4.1	8.1	2.16	33
5号クマ舎		8	8	2.55	64
6号クマ舎		9.94	3.73	3.45	37
合計					1761

※ 敷地面積:20,000m²

秋田八幡平クマ牧場の飼養クマ一覽

平成24年5月18日現在

【1号クマ舎A】

1号A-1



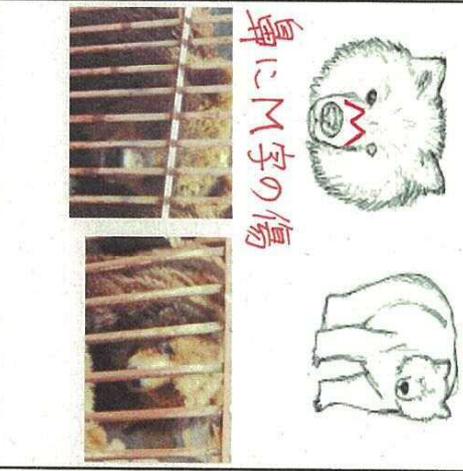
両目の間に傷

1号A-2



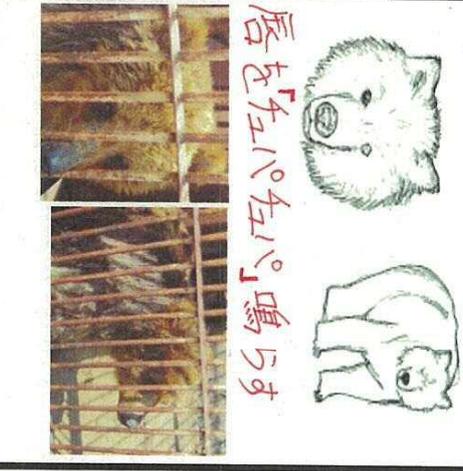
下唇が出る

1号A-3



鼻にM字の傷

1号A-4



唇を「チュパチュパ」鳴らす

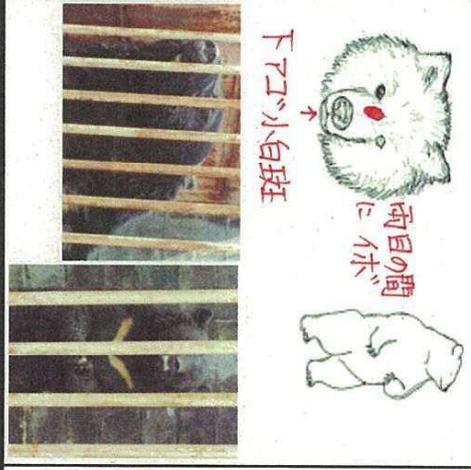
【1号クマ舎B】

1号B-1



下アゴに白斑
右斑紋下に腋毛

1号B-2



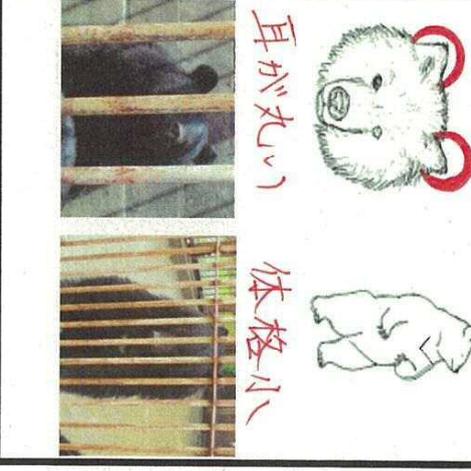
下アゴに白斑
両目の間にイボ

1号B-3



両目の間に糸状の傷

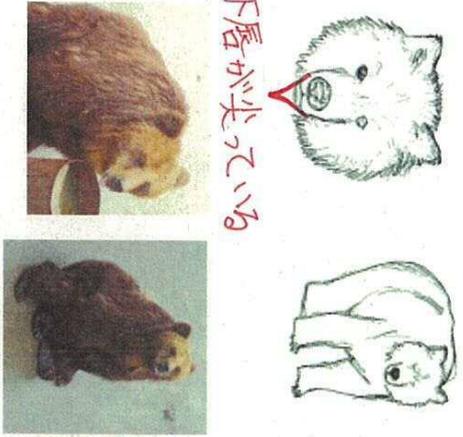
1号B-4



耳が丸い
体格小

【2号クマ舎A】

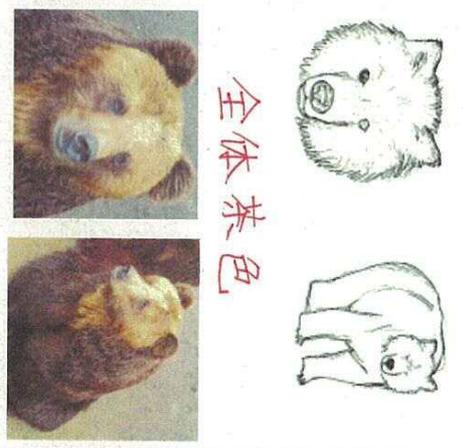
2号A-1



2号A-2



2号A-3



2号A-4



2号A-5



2号A-6



【2号クマ舎B】

2号B-1



右犬歯出る



黒っぽい

2号B-2

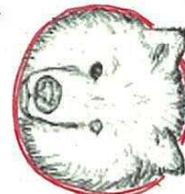


右目上傷

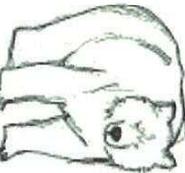


痩せている

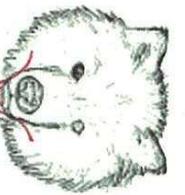
2号B-3



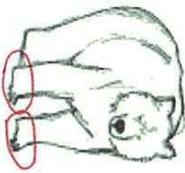
顔茶色・丸い



2号B-4



茶色, 受け口



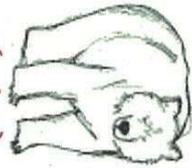
両前肢爪白い

【3号クマ舎】

3号-1



体格大



(又)

3号-2



体格大



(又)

3号-3

子クマ



H24.5.8 確認



3号-4

子クマ



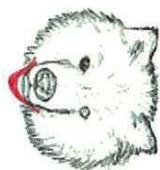
H24.5.8 確認



【4号クマ舎】

4号-1

(ピック)

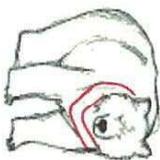


やや愛のロ



4号-2

(ケイコ)



首に白く襟巻き模様



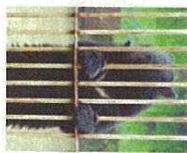
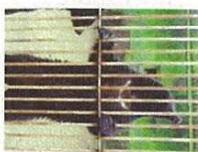
【5号クマ舎】

5号-1

(あいち)



胸の斑紋が長い



5号-2

(とよこ)



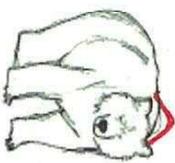
胸の斑紋が狭い



【6号クマ舎】

6号-1

(イチロー)



毛甲部やや高い (大)



6号-2

(コロー)

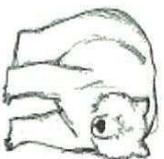


(中)



6号-3

(コイタロー)



内斜視 (小)



秋田八幡平クマ牧場の「個体識別表」の概要 (ヒゲマ23頭、ツキノログマ6頭 計29頭)

平成24年5月18日現在

個体No.	名称	種類	性別	推定年齢	外見上の特徴	健康状態 (望診)	飼養保管の開始・終了		備考
							年月日	事由	
1号クマ舎A-1		ヒゲマ	♂	7才?	(大) 両目の間に傷	異常なし	H20.12.9	～	「3号クマ舎-1」と「3号クマ舎-2」の間の子
1号 " A-2		ヒゲマ	♀?	"	(中) 下唇が出る	異常なし	H20.12.9	～	"
1号 " A-3		ヒゲマ	♂?	"	(中) 鼻にM字の傷	異常なし	H20.12.9	～	"
1号 " A-4		ヒゲマ	♀?	"	(小) 唇をチュパチュパ鳴らす	異常なし	H20.12.9	～	"
1号クマ舎B-1	ムサシ	ツキノログマ	♂		下顎に白斑、右斑紋下に脱毛	異常なし	H20.12.9	～	
1号 " B-2	ゴロ	ツキノログマ	♂		両目の間にイボ、下顎に小白斑	異常なし	H20.12.9	～	
1号 " B-3	タロー	ツキノログマ	♂		両目の間に縦の傷、顎に白斑なし	異常なし	H20.12.9	～	
1号 " B-4	タカコ	ツキノログマ	♀		体格小、耳が丸い	異常なし	H20.12.9	～	H21北秋田市から搬入 (グループ中の劣位)
2号クマ舎A-1		ヒゲマ	♂?		全体茶色、下唇が尖って出る	異常なし	H20.12.9	～	
2号 " A-2		ヒゲマ	♂?		左耳なし、台の上にいることが多い	異常なし	H20.12.9	～	
2号 " A-3		ヒゲマ	♂?		全体茶色	異常なし	H20.12.9	～	
2号 " A-4		ヒゲマ	♂?		黒っぽい、左も毛薄い	異常なし	H20.12.9	～	
2号 " A-5		ヒゲマ	♂?		黒っぽい、体格やや小	異常なし	H20.12.9	～	
2号 " A-6		ヒゲマ	♀?		体格小、隅でうずくまる、削痕	元氣消失	H20.12.9	～	(グループ中の劣位)
2号クマ舎B-1		ヒゲマ	♀		黒色、体格大、右犬歯出る	異常なし	H20.12.9	～	
2号 " B-2		ヒゲマ	♂	高齢?	右目上・肩甲部に傷、削痕	元氣消失	H20.12.9	～	
2号 " B-3		ヒゲマ	♂		顔茶色・丸い	異常なし	H20.12.9	～	
2号 " B-4		ヒゲマ	♂		茶色、受け口、前肢爪白色	異常なし	H20.12.9	～	
3号クマ舎-1		ヒゲマ	♂		体格大	異常なし	H20.12.9	～	
3号 " -2		ヒゲマ	♀		体格大	異常なし	H20.12.9	～	
3号 " -3		ヒゲマ	不明		<H24.5.8確認>	異常なし	H24	～	「3号クマ舎-1」と「3号クマ舎-2」の間の子
3号 " -4		ヒゲマ	不明		< " >	異常なし	H24	～	"
4号クマ舎-1	ピツク	ヒゲマ	♂	4才	やや受け口	異常なし	H20.12.9	～	「3号クマ舎-1」と「3号クマ舎-2」の間の子
4号 " -2	ケイコ	ヒゲマ	♀	4才	全体グレー、首に白く襟巻き模様	異常なし	H20.12.9	～	"
5号クマ舎-1	あいち	ツキノログマ	不明	2才	胸の斑紋が長い、よく万歳する	異常なし	H22.10.28	～	H22.10.28豊田市から搬入
5号 " -2	とよこ	ツキノログマ	不明	2才	胸の斑紋が狭い	異常なし	H22.10.28	～	"
6号クマ舎-1	イチロー	ヒゲマ	♂	3才	(大) き甲部やや高い	異常なし	H21.1	～	「3号クマ舎-1」と「3号クマ舎-2」の間の子
6号 " -2	ゴロー	ヒゲマ	♂	3才	(中)	異常なし	H21.1	～	"
6号 " -3	コイタロー	ヒゲマ	♂	3才	(小) 内斜視	異常なし	H21.1	～	"

※ツキノログマは有害駆除等で保護された個体がほとんどであるが、ヒゲマの多くは同牧場内での出生個体である。